



大人の発達障害

発達障害についての理解を深めるとともに、当事者がどのように工夫したらいいのか、また周囲の人々がどのように対応すればよいのかについての内容です。発達障害を持つ方々に対し、療育・教育・就労支援といったライフスタイルに応じた支援事業や、エビデンス(証拠、根拠)に基づく、適切な療育支援を提供できる人材育成を行っている、NPO 法人 SUN - Tatebayashi 理事長の岡田恭典医師にお話をさせていただきます。

演題 「大人の発達障害 ～理解と対応～」

講師 NPO法人 SUN - Tatebayashi
理事長 岡田 恭典 医師

対象 高崎市在住または在学在勤の方

申込 オンライン申請

QRコード、または下記 URL からお申込みください。
動画の URL をメールにてお送りいたします。



<https://logoform.jp/form/h8ij/792306>

受付期間 2024年12月16日（月）～2025年1月17日（金）

視聴期間 2024年12月16日（月）～2025年1月31日（金）
本講演会は、動画の配信により行います。

問い合わせ：障害福祉課相談支援担当 Tel 027 - 321 - 1358

こころの病気について

こころの病気は、だれでもかかる可能性があります。また、その多くは治療をすることで回復します。こころの病気になったとしても、安心して働き、暮らせる社会にするにはどうしたらよいのでしょうか。そのスタートが、こころの病気について理解を深めていくことです。

大人になって発達障害に気がつくのはなぜ？

(政府広報オンラインより抜粋)

発達障害は、自閉スペクトラム症（広汎性発達障害）、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害、チック症、吃音など、生まれつきみられる脳の発達の違いによるものです。発達障害のある人は、脳機能の発達がアンバランスであるために行動や態度に様々な特性が現れます。本人のやる気や努力不足、保護者の育て方などにより起因するものではありません。

発達障害は生まれながらの脳の働き方の違いなので、「大人になってから発達障害になる」というわけではありません。多くの場合、発達障害の特性はこどもの頃から現れますが、その頃は、その特性を個性の一つとして捉えられたり、周囲からフォローされたりするため、本人も周囲の人も発達障害と気づかずに大人になることも少なくありません。しかし、進学や就職で社会に出ると、人間関係は複雑になり、様々な人とコミュニケーションをとることになります。また、相手の表情からすべきことを察したり、周囲に合わせて行動したり、仕事を計画的に進行するなど社会性を要求されます。このようなときに、潜在的に持っていた発達障害の特性が浮かび上がってきて、人間関係や仕事でつまづいてしまい、そのとき初めて発達障害に気づくケースがあります。

障害福祉課では、こころの健康に関する相談を随時お受けしています。ひとりで悩んだり、ご家族だけで抱え込まず、お気軽にご相談ください。また、こころの病を抱える方やそのご家族向けのつどいなど、各種事業も実施しております。

詳細は高崎市ホームページを御覧ください。

高崎市 精神保健



高崎市役所本庁	障害福祉課	1階3番窓口	電話	027-321-1358	(直通)
倉渕支所	市民福祉課	1階4番窓口	電話	027-378-4525	(直通)
群馬支所	市民福祉課	1階	電話	027-373-2381	(直通)
新町支所	市民福祉課	1階5番窓口	電話	0274-42-1238	(直通)
箕郷支所	市民福祉課	1階5番窓口	電話	027-371-9055	(直通)
榛名支所	市民福祉課	1階	電話	027-374-5112	(直通)
吉井支所	市民福祉課	2階5番窓口	電話	027-387-3133	(直通)